

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045 (661) 0166

辛酉の歳日を迎へて

会長 志村 慎 吾

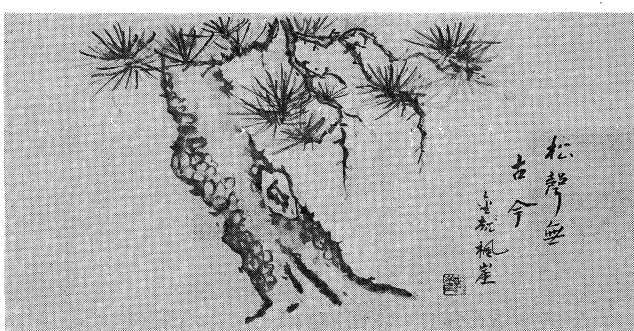
昭和五十六年酉の新春を迎へ、謹んで年頭のご祝辞を申し上げますとともに旧年のご高庇に対し厚くお礼申し上げ、本年もよろしく越格のご法愛、ご鞭撻を賜りたく、衷心からお願ひ申し上げます。

禅宗でよく云う言葉に、「鶏鳴曉天を報ず」と云うのがあります。又、道元禪師様は「鶏は曉の五更に鳴き、三年一聞あり」と申されております。これは、道元禪師様が二十四歳のとき宋の国に渡られ二十八歳でお帰りになられるまで五ヶ年間中国で禅を修行されて来られたときの最初のご説法の一節でございます。道元禪師様は、如浄禪師様について天童山で厳しい禅の奥儀を学び得て帰られたのですが、如浄禪師様の道場には「一毫も仏法なし」と申されて、仏法

くさいものは一片もなかった。私は五ヶ年も勉強して来たが全く素手でこれと云うお土産もなく帰ってまいりましたと云うのです。ただ鶏は夜明の五更になると時を告げるし、三年目には閏年が必ずやって来る。朝日は東から昇り、夜々月は西に沈むと云うあたりまえのこの事実の体得をした他には仏法など、禅などどこにも無かったと申しておられます。この事は「あたりまえ」のこと「ありのまま」のことで、ありのままを離れ

て仏法など一つもありはしないと云うことを教えているものと存じます。

近年、高度経済の成長と日本国土改造論とかで、何処へ行ってもお寺が見違える程立派になってお



ります。素晴らしい大伽藍でございます。『伽藍はあるが仏法は無い』と在家の方々お申します。お寺が仏法ぢやない、お経が仏法でもない、坊さんが仏法でもない、あたりまえのことがあたりまえに立派に行なわれること以外に、仏法

などと云うものはないのです。ひるがえって私共寺院仏教の現況を思いますと南方諸国の比丘たちに劣らぬ、暁天の鶏鳴と共に起きて、暁天坐禅などに精進しておられる聖僧もおられますが、その他の多くは、顧みて恥ぢらしと云いまし

ようか、むしろ在家人の朝夕の勤行に軸をおく新興宗教の信心即生活の姿に、襟を正して学ぶべき多くのものがあるようにさえ感じられる。昨今であります。古い言葉に『信火行烟』と云う語がありま

すそれは火が燃えていけば煙りが立つように、その人の胸の中に信心の火が燃えていれば必ず実行の上にあらわれると云うことだと思

います。孔子様が「私は若い時にはその人の言葉だけで信用したが、年とつてからはその人の言葉を聞き行いを見てから信用することにした」といっているように、私どもお互いには自分の修行や信心や行動をたしかかなものにしなさいといけないうのだと存じます。

西有寺本堂に女流作家から出家して瀬戸内寂聴尼になられた瀬戸内晴美さんの仏教文化講演会を開催いたしましたところ、当日は七・五・三と云う国民的な祝い行事のある日でしたが流石の西有寺様の大本堂も善男善女の聴衆で廊下まで溢れる程の盛会でございました。

瀬戸内さんのネームバリューが高いとは申せ満堂の善男善女(女性)が九〇%でした(が)仏縁を結び、その上に奉讃会の運動に当日新たに加入された方々が八〇名にも達したことは、勝縁中の勝縁でも無いことだと存じます。当初からの会員と加算しますと既に五百余名に達したと承っております。

箇々のエネルギーを聚め、一方の方向に動かし一団として爆発させるにはこれをそこまで引張るのになみなみな努力が必要でございますが、進んでこの牽引力となつて奉仕して行くことこそ、昭和五十六年の私共と与えられた大きな課題ではないでしょうか。

一灯の小さな灯も、三百五十灯から五百余灯に拮つて参りました。千灯万灯、灯々無盡に大きな輪となり大燈となつて、混沌する世相に光り輝きお導びの大燈となるには私共がそう信じ合ひそして実行して爆進する以外にないと存じます。

去年今年 貫く棒の如きもの (虚子)

どうぞ、皆さん、大所・高所に立って今年も力を合せあつてたくましい心棒になつて参りましょう (金龍禪院住職)

涅槃會会場 宝蔵院を訪ねて

来たる五十六年二月の市仏連第六回涅槃會が開催される、戸塚区吉田町宝蔵院を十二月十三日に、市仏連志村会長他市仏と奉讃會の役員が訪問し、地元戸塚区仏会長の役員と共に同寺住職吉田全隆師の院内会場の御案内を頂き、会場準備と当日の次第運営等について打合せが行なわれた。

宝蔵院は眞言宗大覚寺派準別格本山、弘法大師の開創、東高野と称し本尊は不動明王である。

東海道戸塚の宿東方眺望に富む小高い丘にあり、弘法大師東国御巡化の途上当地に留錫され一字を建立せられ、東峯山光円寺と称したに始まる。

中興朝興法印高野山より来山、天文十六年再建、東峯山金剛寺宝蔵院と改め、法光近郷に遍満す。以来幾度かの大水害、大震災に遭い歴代住職の苦心努力によって次第に寺門隆昌し、現董に及んで戸塚駅周辺の大開発に伴う現在の地に移転、本堂庫裡を近代建築様式による再建を発願し、数年前に今日見る如く寺域を一新した。今回開催される涅槃會に地元戸塚区は勿論、市内外より多数の僧俗が参集して広く仏縁が結ばれることを念じたい。

常備寺庫裏客殿落慶

大本山総持寺のおひざもと鶴見区の静かな丘、駒岡に曹洞宗常備

寺がある。十月五日秋晴れの天候にめぐまれ、普山結制上堂及び庫裏客殿新築の落慶法要が盛大に行なわれた。寺の山門を入ると「いちよう」の古木が寺の歴史を物語っている。当日は真新しい客殿庫裏を披露し大本山総持寺より監院老師を導師にお迎えし、数多くの善男善女の参拜で、本堂も超満員、無事式典を祝った。

正観寺本堂落慶

相鉄線で横浜から約十分のところに曹洞宗正観寺がある。鉄筋コンクリート三階建ての中に本堂、客殿、納骨堂等が、使いよくととのっている。十一月一日、この本堂落慶式には、大雄山最乗寺より余語老師を導師にお迎えし、合せて結制上堂等の式が盛大に行なわれた。当日は市仏連副会長、専務理事等も出席し、山門の益々の御発展を祈った。

次期役員改選について

十二月五日理事会において、次期会長選任について協議の結果、選考委員会を發足し、その中で充分検討していただくことになり、金沢区仏教会長須方老師、西区仏教会長佐藤老師、神奈川区仏教会長山本老師、それにこの責任者として中区仏教会長佐藤泰心老師が選任された。そして、次期正副会長を推薦していただき、その会長

の推選により事務局関係が任命され総会において、これを承認していただくということとなった。

常務理事の交代

南、港南区仏教会会長に後藤泰心師。緑区仏教会会長に北田隆海師が就任されました。

保土ヶ谷、旭区仏教奉讃会長に長源寺檀信徒総代本田範雄氏就任され今後益々の発展が期待されている。

大本山総持寺 監院に大道師

曹洞宗大本山総持寺(貫首、乙川瑾映本会名誉会長。鶴見区鶴見二一一一)では、この度、三年の任期を無事つとめられ、円満裡に退任された松浦英文師の後任の監院(寺務総長)に、北海道釧路市定光寺住職の大道晃仙師を任命し去る十一月二日その掛塔式を行なった。

大道晃仙師は、北海道選出の宗議會議員として、その重厚・誠実な人柄と卓絶した識見とで会派を超えて将来を嘱目されていたが、やはりという感じで、その大番頭ぶりが期待される。師の先代、大道英仙師も徳望高く、昭和二十六年に総持寺監院職をつとめた方で師資二代にわたる榮譽である。

忘年懇親會、積尊奉讃會と合同で賑々しく開かれる

市仏連では、恒例となっている忘年懇親會を去る十一月五日開かれた理事会に引き続き、関内の「柳」

友繁禪弘師遷化

市仏連稅務委員長
(金沢区正法院住職)

本會稅務研究委員會委員長友繁禪弘師は、十二月四日午前九時金沢病院にて四大不調の為入院加療中薬石効なく六十九歳の生涯を閉じて化を他界に遷された。

師は、明治四十四年福井県福井市国山に誕生、大正十三年十四歳にて愛知県豊橋市大聖寺住職磯島堅禪僧上について得度、昭和十年京都府谷性寺に初めて住職となり昭和十六年兵庫県但馬万福寺に転住、更に昭和三十一年三月金沢正法院住職に来寺入山された。爾來當寺の寺門繁榮のため献身的努力を尽して来られ、特に寺院の経営には見識高邁であったので本會の稅務研究委員長として卒先してその指導に当たっていた。宗門の面でも當っていた。十二月七日日本葬儀には御室派宗務総長橋本龍応僧上の計経隨喜があり、管長狼下より権大僧上への昇進の御沙汰があった。

山本正雄師

保土ヶ谷区仏向町三九九曹洞宗仏向山正福院住職山本正雄師は、かねて四大不調にて療養中のごとろ去る八月三日六十七歳をもって遷化された。

本葬は九月五日日本寺雲松院内野陽洲大導師、脇導師、教岡白鳳師実淨文英師で盛大厳肅に執行された。

師は号を大典と称し明朗豁達な人柄で徳望高く保土ヶ谷区仏教会長、保土ヶ谷区旭区積尊奉讃會理事長として永年にわたり敏腕をふるい今日の礎を築いたといわれ、各方面よりその早い遷化が惜しまれている。後任住職は、神奈川県仏教青年會事務局長をつとめておられる山本尚享師で、即日十九世の董席をついだ。

渡辺源証師

西区光源寺住職渡辺源証師は十一月十日五十九才で遷化され、同月二十日日本葬が行われた。

師は保育園を経営され幼児教育に力をそそぎ、教師師として受刑者の教化につとめ、また西区仏教会副会長として永年仏教会発展の為に尽力してこられた。本葬には数多くの弔辞と長い焼香の列は生前のご活躍の程が偲ばれた。

頌 春

祈 高 堂 万 福

臨濟宗 建長寺派

福聚寺 住職

森 山 正 城

保土ヶ谷区岩井町五六
電話 七五一五五九四

神奈川区 仏教会

会 長 山 本 芳 昭

副 会 長 黒 多 良 弘

副 会 長 板 垣 禎 一

神奈川区子安通三遍照院中
電話 四四一〇八二七

曹洞宗 雲林寺

住 職 北 見 定 賢

〒244 戸塚区矢部町七八八
電話 八六一一三二四

曹洞宗 大本山 総持寺 貫首
横浜市 仏教連合会

名 譽 会 長

乙 川 瑾 映

鶴見区 鶴見二一一一
電話 五八一六〇二一

横浜市 仏教連合会

顧 問 弁 護 士

遠 藤 隆 也

連絡先 東京都台東区東上野二一八〇七
共同ビル五F五一一五
電話 〇三三八三二二八一
遠藤法律事務所

鶴見区 仏教会 会 長

金 剛 寺 住 職

中 田 隆 勲

鶴見区市場下町六一三三
電話 五一五一四八

神奈川県 仏教青年会 監 査

天台宗 観音寺 住 職

本 間 孝 康

神奈川区三ツ沢東町八一二
電話 三二一五九六〇

神奈川県 仏教会 会 長

東 身 延 本 覚 寺

貝 山 宣 泰

鎌倉市小町一―二―二二
電話 〇四六七―三―〇四九〇

神奈川県 仏教青年会 会 長

興 禅 寺 住 職

市 川 智 彬

南区 清水丘二二五
電話 二三一七五九〇

南・港南区 仏教会 会 長

日 行 寺 住 職

後 藤 泰 心

港南区上大岡東一―四二―一
電話 八四二一〇〇五

横浜市仏教連合会監事

光長寺住職

鷹 巢 道 孝

戸塚区飯島町七七九
電話 八八一―五四五六

戸塚区仏教会会長

永 原 文 雄

戸塚区戸塚町四九〇七
電話 八六二―九三三六

金沢区仏教会会長

真言律宗
別格本山 称名寺住職

須 方 智 證

金沢区金沢町二二二
〒236 電話 七〇―一九五七三

磯子区仏教会

会長 川 野 清 吾
副会長 瀧 川 覚 道
會計 鬼 頭 誠 胤

横浜市釈尊奉讃会

事務局次長

藤 江 馨 山

保土ヶ谷区岩井町三二二
〒240 電話 七三一―二七九六

横浜市釈尊奉讃会 會計

東照寺住職

程 木 德 明

港北区綱島西一の十三の十五
〒223 電話 五三一―一七八三

横浜市釈尊奉讃会 會計

荻 正 義

港北区綱島台一〇―一〇
〒223 電話 五三一―二二四八

中区仏教会会長

大円寺住職

佐 藤 日 香

中区大平町九四
〒231 電話 六四一―四九三三

市仏連監事

円光寺住職

赫 多 正 圓

鶴見区朝日町一―五六
電話 五〇一―六〇〇〇

保土ヶ谷旭区仏教会会長

日蓮宗々々 議員
大蓮寺住職

田 島 海 義

保土ヶ谷区神戸町九八
電話 三三一―〇一三五

西区仏教会会長

墓地専門委員会委員長
久成寺住職

佐 藤 壽 応

西区平沼一―二〇―二六
電話 三二一―七六七六

市仏連参与

港北区仏教会会長

柴 田 敏 夫

港北区菊名町五二一
電話 四二一―八六八三

支部だより

西区仏教会

- 1月 新年懇親会
- 2月 カンボジャ難民救済募金十五万円を全国仏青に託す
- 3月 二十八回花まつり、稚児多数参加して盛大に行う
- 6月 総会、予算決算、事業計画の承認
- 10月 柴又帝釈天研修参拝、浅草伝法院庭園拝観 30名参加
- 11月 税務研修会、斉藤隆法師を招き会計帳簿等の勉強
- 12月 歳末助け合い募金、本年も寺院に募金箱を置いてもらい年末に集計区役所に届ける。実績により知事全国共同募金会長、西区長より感謝状を授与する。

保土ヶ谷旭区仏教会

保土ヶ谷旭区仏教会では、恒例の成道会を、十二月八日、市沢「長見寺」に於て住職渡井奎一師導師により厳修した。

仏教会長田島海義師より敬白文が奉読され、引続き鶴見区の壽山良知師の記念講演が行なわれ、釈尊の恩徳を讃仰、檀信徒一同更に親睦を深めることができた。

ここに田島会長の敬白文を紹介しておこう。

敬 白 文

仰ぎ願わくば三宝俯して昭鑑を垂れ給え。本日茲に大覚世尊八相成道の聖日を迎え奉り、慎んで読誦し奉る、大乗妙法蓮華経觀世音

菩薩普門品偈、鳩る所の功德は、南無大恩教主釈迦牟尼仏に廻向す今此の三界は皆是れ我が有なり、其の中の衆生は悉く是れ我が子なり、而も今此の処は諸の患難多し唯我一人のみ能く救護を為す、大慈大悲常に憐愍無く常に善事を求めて一切を利益す、毎に自ら是の念を作す、何を以てか衆生をして無上道に入り速かに仏身を成就することを得合しめんとなす。大慈大悲大恩御報恩謝徳

余慶の功德を以ては、保土ヶ谷旭区仏教徒一同、殊には本日参詣の信男信女道念堅固、信力不退、家内円満交通安全一切無障礙。願わくは此功德を以て普く一切に及ぼし我等と衆生と皆共に仏道を成せんことを

昭和五十五年十二月八日
保土ヶ谷旭区仏教会長
大蓮寺 田島海義 敬白



成道会記念法話

「お蔭さま」と「願ひ」
高野山金剛峯寺普僧
鶴見区・竜泉寺住職
寿山 良 知

苦勞して家が建つたとき、土台作りや壁塗りや、配管配線工事をした人々に思いを馳せる者はまれだ。自分が健康でいられるとき、そのものになった、さまざまなものや働きを考えることも、同時に、まれな場合が多い。しかしひとつの事が成り立ったときには、無限の感謝の心をこめて来た。

「お蔭さま」というのは、釈尊が悟られた縁起の法を、日本的な受けとめ方で表現したもの一つである。しかし、たとえば盗みをして金がもったったときに「お蔭さまで…」などとは言わぬはずだ。

「お蔭さま」という言葉にはもう一つ「それなら自分は、他のお蔭になり得ているか」という自戒の心がひそんでいるからである。「しからば自分は、他のお蔭たり得る働きをしているや?」みんないっしょに幸せを、というところから仏教ではあらゆる場合に、当願衆生と言ひ、われらと衆生とみなすものと願ひ、乃至法界平等利益と祈る、いたずらに長命であつても天寿を全うした、と果して言えるかどうか、他の者のお蔭たり得るように、とのせつなる願ひのこめられた人生だけが、全うする、と

いうことに値するはずである。人は自分に、なにをしてくれるべきか、ということが声高に叫ばれる時代だが、このせつなる願ひを忘れては、幸せなど得られるはずがない。

仏跡参拝、保土ヶ谷旭区 仏教奉讃会

紅葉探索と青梅の里を尋ねて 今度は十月二十二日快晴の青梅路をバス五台、約二百五十名の旅となった。

まず真言宗醍醐派の古刹、塩船観音に参拝である。だから坂を登って草葺屋根の本堂前に額いた。執事さんにお燈明料を渡してご案内を願つたが、集印帳の押印が忙しく出て来ない、やむなく会長さんの博学を発揮して頂き寺の由来の説明をして事なきを得たがああ大変だった。

参拝も早々に、次は青梅の地名の発祥の寺、真言宗豊山派、金剛寺へ、境内に梅の古木があり、十月下旬と云うのに、この木に緑色の実が二個見つけられた。なる程これが青梅の地名の由来の木かと感心して眺めた。本堂に合掌して退山、もう正午である。

今回はドライブインが近くに無く、観光屋に弁当を用意させての中食である。

曹洞宗天寧寺さんに零時半頃到着拜登、七堂伽藍が偉容をほこる名刹である。高木武彦住職より寺の由緒、七堂伽藍の説明から道元禪の真髓について法話を頂き、ああお腹がすいたなあと思ひながら田島会長さん、吉川理事長さんのご挨拶を聞き、大きな本堂の中で智水を飲みながらの中食となり、談笑しながら素晴らしい庭を眺めながらしばし休息、坐禅堂などを拝見して、二時過ぎ、和やかな気持ちでお礼を申し上げ、バスの人となった。

最後の目的地吉川英治記念館につき大急ぎで書斎をのぞき、資料館を見学して、この日の予定の行事を無事終つた。

ところが土産を買はねばの声におされて、へそまんじゅう屋にバスをつけた皆一同おみやげをかかえ、安心した顔つきで、夕ぐれ八王子街道を一路帰浜、盛沢山の参拝見学をすませた充実感を味わいながら感激と合掌のうちに、またお願いしますの声を掛けながら無事家路についた。

第六回涅槃会要綱

- 一、日 時 昭和五十六年二月十三日(金) 午後一時受付、二時記念講演
- 一、場 所 戸塚区吉田町九三三(横須賀線戸塚駅下車東口よりバスにてプリヂストン前下車)
- 一、記念講演 真言宗、宝蔵院、電話〇四五―八六四―一三三四 私はなぜ仏教を信ずるか 一科学と仏教― NHK宗教講座出演、東大名教授 武藤義一先生
- 一、会 費 御香料として一名千円
- ◎ 随喜御寺院は黒路衣着用

事 務 日 誌

- 55・7・29 三役会の開催(奉賛会と合同) 於西有寺
- 55・9・1 三役会の開催(奉賛会と合同) 於西有寺
- 55・9・5 保土ヶ谷正福院本葬副会長専務参列焼香
- 55・9・17 三役会の開催(奉賛会と合同) 於西有寺
- 55・10・17 三役会の開催(奉賛会と合同) 於西有寺
- 55・10・17 常務理事会の開催、於西有寺
- 55・11・12 三役会の開催(奉賛会と合同) 於西有寺
- 55・11・15 仏教文化講演の共催於西有寺
- 55・12・1 三役会の開催(奉賛会と合同) 於西有寺
- 55・12・5 理事会の開催、於柳
- 55・12・5 忘年会の開催(奉賛会と合同) 於柳
- 55・12・7 市仏連税務委員長故友繁老師本葬、会長参列弔辞奉読
- 55・12・13 涅槃会の件戸塚区仏教会と話し合い、於戸塚区宝蔵院
- 55・12・13 三役会の開催、会報編集、於福聚寺

編 集 後 記

- 新春を迎え任期最後の編集に役員一同努力をした。
- 昨年は、瀬戸内晴美さんの大講演会を奉賛会と共催したが、広く世間一般の信者も参加し、盛大にして無事終了した。会員諸師の今後のご協力を切に願う。
- 本年の涅槃会は、戸塚区宝蔵院で開催する事になった。どうぞお一人でも多く出席されるようご協力をお願いする。
- 昨年は高德な老師がご遷化され非常に残念だ。しかし一方上堂落慶等もあり、若い僧侶の活躍を望む。
- 本年諸師の御発展を心より祈る。
- 十二月十三日編集委員会に当り、当会々長は前回の達磨に引続き寿色豊かな松を一筆なかなかの筆さばきであった。
- 第十一号で遠藤弁護士の士を庄とか誤植多々あり、ご寛恕を。

賀 春

祈 高 堂 万 福

横浜市仏教連合会長
横浜市积尊奉讚会顧問

住 職 志 村 慎 吾

金沢区瀬戸一〇一―一二
金龍禅院住職
〒二三六 電七〇一―八八二三

横浜市仏教連合会専務理事

長昌寺副住職

玄 野 孝 善

旭区さちが丘五五九
電話 三九一―一三七九

横浜市仏教連合会副会長

新善光寺住職

福 永 隆 昭

南区三春台一三三
〒二三二 電二三一―五七五四

横浜市积尊奉讚会会長

宇 野 忠 夫

金沢区金沢町一
電話 七〇一―九三八三

神奈川県仏教会副会長
横浜市仏教連合会副会長

西有寺住職

横 山 敏 明

中区大平町九六
〒二三一 電六六一―〇一六六

横浜市积尊奉讚会事務局長
曹洞宗第二宗務所副所長

東林寺住職

瀧 田 東 潤

港北区篠原町一二五二
電話 四二一―〇三三二